

C-73 人体外形の非対称性(第2報) 写真測定による個体差について
鹿児島県立短大 ○茅野艶子 伊地知寛子

目的 シルエッターシステム(自動体型撮影装置)により撮影した資料(1部マルチン人体測定器使用)に基づいて、健康な短大学生(男子58名,女子79名)の1/10のシルエットに現れた非対称性の個体差を観察した。

方法 資料はシルエッターⅡ型(倍率1/10, 酒井特殊カメラ製), 簡易現象処理(フジフイックコピー)により, 被写体の安静立位正常姿勢における前・後面, 左・右側面及び前記姿勢で, 手部を約10cm体測面より離れた前・後面の計6面を撮影したものを, マルチンの鋼製巻尺・定規を用いて計測(単位0.5mm)し, 10倍して実物寸法の近似値とみなした。また肩線傾斜角度は分度器により, 片側体重の測り方は第1報と同じである。対称性の部位の中で, 今回考察を試みた項目は, 肩峰高, 中指尖高, 乳頭高(男子のみ), 脇胸囲点高, 脇丈(女子のみ), 肩線傾斜角度, 背肩幅(頸椎点・肩峰点間幅), 腕の長さ, 肩峰点・脇胸囲点間距離, 足長及び片側体重の11項目である。

結果 非対称性の出現で高い頻度を示すタイプは, (1)体幹・上肢・下肢部ともに左右差の認められるもの(男子約47%, 女子約41%), (2)肩・胸・上肢部即ち胸囲線から上の部分に左右差の認められるもの(男子約35%, 女子約19%)である。